

六花の森プロジェクト

Rokka-Forest Project

No. 03-010-2010更新

外構・景観
工場・物流施設/美術館・博物館

発注者	六花亭製菓株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO ₂ 技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術/FB			
基本計画	株式会社 大林組	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
デザイン監修	OBAYASHI CORPORATION	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		
施工	株式会社 大林組					

地域固有の植物に着目した工場・美術館とランドスケープ

敷地踏査に基づく緑地環境資源の抽出と活用

六花亭製菓が工場を帯広市郊外の中札内村に建設を計画。1997年2月より敷地調査を始め、計画地周辺の豊かな自然環境に溶け込んだお菓子工場、ランドスケープづくりを目指し、約10年の歳月を掛けて(工場は1998年竣工) 2007年9月に約10haの広大な「六花の森」がオープンした。計画・設計において大林組は生物多様性、地域景観などに配慮し、敷地内に存在する自然環境の調査をもとに、環境資源を丹念に抽出することで、敷地固有の植物の保全、地域景観でもある河畔林の保全とネットワーク化、微地形や河道跡を手掛かりとしたクリークの創出や湿地の回復、エコトーンの創出など、エコロジカルな屋外環境づくりに取り組んだ。埋もれていた自然を丁寧に拾い上げ再構成することにより、敷地が本来有していた環境の特徴を顕在化させ、豊かな水とみどりによる魅力ある空間に再生した。

広大な河畔林景観のなかで自然に溶け込んだお菓子工場、古民家の再生による美術館、地元作家によるアートの配置など環境・建築・復元・修景・文化芸術など様々な分野が融合したランドスケーププロジェクトである。



敷地内踏査で明らかになった林床植物



敷地内で見られる植物や生き物たち



多様な植物を導き、敷地内に潤いをもたらす湿地の創出



昔の河道跡を基にしたクリークの創出と多様なみどり



2007年六花の森オープン時の配置図

植生の保全

現地での踏査・分析により、乾燥し外来種が繁茂する植生の現状を確認した。地域固有種を中心とした植生の回復・保全を図った。オオパナノエンレイソウ、ニリンソウ、エゾエンゴサク、オオイタドリ、スマレ、フクジュソウ、クサソテツ、オオブキ、ユキザサ、エゾニュー、アマドコロ、サンナシ、ハルニレ、ケショウヤナギ、ドロノキ等

河畔林の強化保全

航空写真の分析や現地踏査から、分断・孤立林化した河畔林の現状を確認した。地域の植生を考慮した幼木を植栽することにより、河畔を一つの系として捉えてエコロジカルネットワークの創出を図った。札内川流域に広がる地域特有の河川景観を強化することにつながった。

エコ・トーン(移行帯)の創出

敷地内の湿地を回復し、陸域から水域にいたる多様な植生を可能にする緑地環境の創出を図った。草本類の多様性はクリークの形状に大きく左右される点に着目した。抽水植物や小動物の棲家となる多様な環境を創出するためのクリーク形状を検討し、敷地条件に配慮しつつランドスケープ計画に盛り込んだ。

湿地の回復

地形図の分析や現地での踏査から、敷地内に残る河道跡(みずみち)や伏流水、河岸段丘の特徴を確認した。調査結果をもとに湿地ゾーンの回復を図った。乾燥化による植生の変化を抑え、外来種を抑制し地域の草花を保全・育成する環境を創出した。(回復した湿地の面積約5,000㎡)

微地形を活用

地形の微細な特徴を抽出し、クリークの形状や湿地、園路などの配置計画に取り入れた。水域から陸域までの多様な草木を生育可能にし、地域の原風景をつくりだすことにつながった。



放置され外来種の草本類が繁茂して乾燥化が進んでいた敷地



冬季は、ハルニレやサンナシなどの高木以外は一面雪に覆われる日高山脈と札内川流域の河川景観が地域特有の景観資源



既存のハルニレ林などを保全しつつ造成を開始した頃の敷地



坂本直行記念館

工場と池を中心とした前庭

基本計画・デザイン監修担当者
統括：飯田郷介/建築：川瀬俊二、東淳子、堀池隆弥
ランドスケープ/岩井洋、寺井学

建物データ

所在地	北海道河西郡中札内村中札内西3線ほか
竣工年	1998年(六花の森は2007年オープン)
敷地面積	約100,000㎡
延床面積	3,669.40㎡(工場) 450㎡(美術館)
構造	RC造(工場)、木造(坂本直行記念館)
階数	地上2階(工場)、地上1階(美術館)

主要な採用技術(GASBEE準拠)

- Q3. 1. 生物環境の保全と創出(地域郷土種への配慮:敷地内の自然資源の踏査)
- Q3. 1. 生物環境の保全と創出(野生小動物の生息域の確保:エコロジカルネットワークの強化)
- Q3. 1. 生物環境の保全と創出(山野草などの貴重種の保全:オオパナエンレイソウやフクジュソウなど)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮(地域景観に配慮した配置や高さ:周辺緑地の稜線に配慮した建築計画)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮(河畔林の保全と湿地の回復:クリークなどによるエコトーンの創出)
- Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮(自然に触れるランドスケープ空間の提供:微地形を活用した場づくり)

サステナブル建築事例集/社団法人日本建設業連合会
※本事例シートおよび記載内容の二次利用を禁止します